

両石地区復興まちづくり協議会・地権者連絡会 議事要旨

記

- 日時 平成 26 年 8 月 31 日（日）13 時 30 分～15 時 00 分
- 場所 沿岸広域振興局四階大会議室
- 次第

1. 市長からの挨拶
2. これまでの経緯
3. 土地利用計画
4. 事業実施スケジュール
5. 国道 45 号整備の概要
6. 防潮堤整備の概要
7. 意見交換

両石町を流れている川は、地上部はふさぎ、地下を流れる形になるのか？ その場合、生態系に配慮した形になるのか？

→ 両石川は説明どおり、土地利用計画図の水色部分を流れる暗渠^{あんきょ}の河川になり、ボックスで整備します。どうしても暗渠^{あんきょ}河川になると生態系への配慮は難しいところがあり、現在の河川もコンクリートで生態系にはあまりいい状況ではないですが、今回の造成団地を造る上でどうしても河川の暗渠化^{あんきょ}が必要になりました。生態系は前後の暗渠^{あんきょ}ではない部分である程度考慮したいと思いますが、暗渠部分^{あんきょ}の生態系への配慮は厳しいことをご理解をいただきたいです。

※暗渠（あんきょ）…覆いをしたり地下に設けることで、外から見えない水路

「環境を守れないことをご理解ください」という回答はおかしくないか？ 団地整備の計画をつくるために調査や検討をしているのか？

→ 暗渠^{あんきょ}河川になると、生態系への配慮はなかなか難しいです。暗渠^{あんきょ}区間の前後である程度は地下化されない区間があるので、そこで環境に配慮した整備を検討したいと思います。

「検討したい」ではなく、検討してください。ぜひお願いします。

宅地整備にあたり山側に道路が整備されるが、そこに必ず側溝（排水溝）は付くのか？ 両石には6、7ヶ所の沢があるため、いくら宅地を高くしても、側溝が適切に整備されなければ両石は水没してしまう。山から流れてくる雨水の処理を一番に考えてほしい。

→ 基本的に道路には側溝を設けます。ご指摘のとおり、山側の沢から流れてくる水は、整備する宅地の^{上側}で側溝に入れる形での処理を考えています。水処理には十分配慮して整備を行います。

2点質問する。1点目は、例えば造成して家を建てる場合、約15m盛り土をするが地盤は安全なのか？ 専門家から「大丈夫」と説明されたが、今住宅を建てる時には瑕疵担保保険に入る。これは地盤調査をして、欠陥がないかなどを検討した上で基礎工事に着工するシステムであるが、造成した土地では地耐力を全部チェックし、30キロニュートン/m²程度を確保し、布基礎やベタ基礎で住宅が建てられることがわかるデータを出してほしい。自力再建の方々はそのデータで基礎工事を行うのでお願いしたい。

2点目は、環境問題の話である。今の釜石市では浄化槽での排水処理が考えられている。浄化槽は誰でも受けられる補助事業で、5人槽、7人槽、10人槽と3段階に分かれており、全額浄化槽が買えるぐらいの補助金が出るので、これを必ず整備させてほしい。整備されると、雑排水も全て一緒に流せ、浄化され、側溝から流れて海に行く。今、両石湾は誰も住んでいないため非常にきれいだが、この環境を守らねばならない。浄化槽をみんなが利用すれば、海は汚れない。浄化槽の上は駐車場にできるので、家を建てる時にはセットで浄化槽を付けることができるか検討してほしい。

→ 1点目の地耐力は、一般住宅（1・2階）を建てる上で必要な30キロニュートン/m²は確保したいと考えています。なお、試験データは一応出す方向で検討しております。

2点目の浄化槽関係ですが、集落排水は集落人口が多くなければ厳しい問題があり、両石地区では浄化槽での排水対策をお願いしたいと思っています。浄化槽は先ほどのお話どおり、設置する際の補助金を皆さまに利用して設置してもらえればと思います。そうすることで、水はきれいにされ、道路側溝に流すことも可能になりますので、皆さまに協力いただき進めたいと思っています。

今回の説明では当初より約半年もしくは1年遅れるとのことである。補助事業などは大部分が平成28年度末までとなっているが、遅れた場合は遅れた分だけ補助事業の適用も長くなるということでしょうか？

→ 制度の期限ですが、申込期日が平成28年度から今は平成30年度まで延びています。それ以降は、事業の遅れ等については補助が延ばされると思います。確定ではないのですが、事業が終わるまでを考えていると国から返答いただいています。

（市の）事業完了後にみんなが個人で（自宅等の）自力再建を行うことになる。みんなにお金があるわけではないので、そちらまで延ばしてもらえようをお願いしたい。

復興計画に関してだが、両石湾の自然条件と防災にはつながりがあり、リアス式の三陸海岸はノコギリの歯のようだが、両石湾の一番奥にある「恋の峠」の麓まで過去の津波の全てが、他湾に比べて大変な被害をもたらす歴史を繰り返している。東日本大震災時も、発表資料の水位は釜石 10.1m、両石 22.6mであった。両石では今後の長い歴史の中では同じことが繰り返されると思うが、盛土や防潮堤の高さが両石では約 14.5mであり、その復興計画の進行に期待している。歴史的にも高波を避けられない両石で、大津波への防潮堤が弱いことがない配慮を、これからの私たちの子孫の時代に残したい。

津波被害の経緯を振り返ると、明治 29 年（今から 118 年前）に両石では住民 96%、824 名が死んでいる。昭和 8 年（今から 81 年前）では明治の教訓を生かして全住民が逃げ、3 人だけが犠牲になった。今回は高台に避難済みとの安心感もあって逃げる意識が弱く、約 40 人が部落内で犠牲になった。大丈夫だと言って、海岸から高台に、親戚の家に行き、そして帰って津波に吞まれたという、むごい体験もした。そのため、やはり戦前・戦後の津波復旧復興事業では、両石の場合は明治 29 年を基準にすべきではなかったか？ 昭和 8 年の津波のあと、今度の津波を受けており、今回両石が受けた被害の津波の高さや破壊力を基準にして、今後の歴史に残してほしい。

両石の今ある団地も流れた。さらに、その上の山を削って山間都市、神戸のような新しい部落を造ることを 3 年前に私も話したが、それでは工事費が莫大にかかるという、市の誰かの話であった。結論は今の事業の推進を念願し、協力をしたいと思うが、今度の津波の教訓、被害の実況に対応する復興工事の基準をさらに明確にして、住民と行政が一体となって一日も早いふるさとの再生に頑張る、希望の光を共にしたいという気持ちである。

(市長)：明治 29 年、昭和 8 年と津波被害を受ける都度、津波碑（石碑）を建て、後世の人への戒めとして残してきたが、今回また大きな犠牲を出しことを契機に、「二度と悲劇を繰り返さない」、そういう両石のまちをつくるという皆さんの思いは我々も全く同じです。

それを踏まえつつ震災直後、皆さんとお話をし、もっと山奥の津波が来ないところを削って、そこに移転との話もありました。しかし、その際やはり漁業という生業（なりわい）と住まいとの距離感の問題、工事費の問題、あるいは岩盤・土地の形状が難しいなどのさまざまな要因があり、最終的には今日ご説明した形に収められてきました。この間、地権者連絡会をはじめ、町内会の皆さんのご意見をいただき、やっそここまでまとまったかなと思っています。

ただ、これはあくまでも 3.11 津波を基準にしたシミュレーションで安全な土地を確保するとの計算上の問題であり、もっと高い津波が来るかもしれません。そのため、これで安全とは言えないわけで、避難の在り方や避難場所、子どもたちの防災教育の在り方など、いろいろ考えながら生活しなければと、まさに今ご指摘のとおりで、これで完成ではありません。そのため、ご理解をいただきたいのは、ある一定の防潮堤の高さ、それからかさ上げで一定の安全性は確保されたと思

ますが、これは「安全だ」と言うのではなく、一定の基準の中で確保されたことを、皆さんと共有したいと思っていました。したがって、何かあるときはやはり避難が必要ですし、自らの命を守るという訓練も絶えず行わねばなりません。

両石の皆さんは、昭和8年の津波、あるいは明治29年の記憶をたどりつつ、町内会で津波記録史のようなものも出版されており、きちんと地区の皆さんで津波に関する継承をしている集落だと思います。今回新しい宅地ができますが、まさにそういうきずな、コミュニケーションが大切で、先ほど環境の話もありましたが、皆さんの協力をいただき、何とか両石の海、住むところもきれいにして、こういう生活をしているという模範的な場所として、両石が全国に発信できるようにしなければと思います。土地利用だけでなく、今後の生活のありよう、環境問題、防災教育、避難訓練など、さまざまところで地域の一層のきずなが大事で、それができる場所だと思います。我々もそれを踏まえて皆さんと一緒に両石の新しいまちづくりに取り組みたいと思います。

先ほど環境の話が出ましたが、今まで何回かまちづくりの話をしてきましたが、初めてだと思います。その背景として、やっと自分の家が建ちそうだが、建ったあとどうなんだという話がようやく見えてきたのだと思います。これからまだまだ課題があり、それを乗り越えながら説明したいと思います。両石の皆さんのお気持ちを代表したお話であり、そのお気持ちを大事にしたいと思いますので、どうぞよろしくをお願いします。

土地利用計画を実現するための事業費総額はいくらの予定なのか？ それは、当初計画から変更があったと思うが、増えたのか、減ったのか？

→ 当初段階では概ね40数億円を計画していましたが、国との交付金協議資料の中で事業費概算を出したところ、約40億円の事業費総額になりました。しかしながら、最終的な事業費の精査はまだ終わっていません。

防潮堤のところや住居地域で、「トップ」が+20mと+12mになっているが、どこからプラスの数字なのか？

→ T.P.というのは東京湾の平均海面高であり、一般的に高さの説明で用いるT.P.という表現にしています。海拔とか標高だと思ってください。

集落側から海へ人間が出入りする場所は、将来的にどこになるのか？ 漁師はたとえば1mの津波が来ても、船や船の漁具など、自分の資産を守るために海へ行く。そのときは南側の道路を通過して向かうこととなり、防潮堤には避難階段が付くということか？

→ 今までは、陸側から水門で海側に抜けていましたが、それがなくなります。人間の出入りは、少し高くなる防潮堤の上を通る乗越道路で海に行くようになります。避難階段は、別資料P22の図面の防潮堤沿いに付き、南側と北側の各乗越道路に避難できるようになります。

防潮堤の寿命は何年ぐらいか？ 高層ビルと同程度の寿命という認識で良いか？

→ 寿命ですが、基本的には鉄筋コンクリート構造で造ったものは、補修等を行いながら維持管理を行えば、通常 50 年以上持ちます。高層ビルと防潮堤の比較はできませんが、防潮堤は鋼管杭と鉄筋コンクリート構造のために 50 年以上持ち、それ以降はメンテナンスでより健全な状態を長もちさせることを考えています。

現在、両石の沢には相当数の砂防ダムがあるものの、そのほとんどが埋まっており、もし大水が出ても用をなさないと思う。管理者には定期的に現地確認の上で土砂を取り除いてもらわなければ、全然効果がないと思う。安全を考えて砂防ダムがあるわけで、土砂をせき止める余力を持たせておき、いつでも何かある時に効果が出るようにしてほしい。

→ 了解しました。現地を確認の上、施設管理者と協議したいと思います。

工期が少し遅れることに伴って仮設の集約はどうか？

→ 先日、今時点で考える仮設の集約予定を示させていただきました。随時スケジュール見直しを行う中で、仮設の集約予定も見直さねばならないと思いますので、そのときどきの進捗状況に合わせ、随時見直しを行います。

北ブロック提案体（工事業者）の紹介

業者名

・戸田・青紀土木・福山・三和技術・釜石測量設計共同提案体

(市長)：今日は皆さん、長時間ごくろうさまでした。いろいろと防潮堤や道路の話もありましたが、自力再建や復興公営住宅の完成が当初予定から約半年遅れ、平成 28 年 10 月頃になることは大変申し訳なく思います。先ほどの業者さんのご挨拶にあったように、何とか今日示されたスケジュールまでに工事をしてもらう、できるだけ前倒して工事が終わる努力を行いますので、よろしくお願いします。

それで、宅地の引渡しですが、先ほど^か瑕疵担保責任の話もありましたが、家を建てても地盤が崩れないよう、工事は責任を持ってやらせていただき、順次お渡しすることにしますので、もう少しお待ちください。それまでの間は仮設に入っていたかねばなりません。先ほど仮設の集約の話もありました。各地区での説明は、例えば鶴住居は早いところで何年から移る、あるいは箱崎の人はこうというスケジュールを示しています。そうすると、だいたい自分がいつ頃に家を建てられるかの目処がたち、あるいは自分が申込んだ復興公営住宅にいつ頃入れられるかの目処が立ちます。自分たちが移る前に仮設がある借地を返したり、または別な土地利用に使う理由などから、仮設の集約も市はしなければなりません。もし、そういう場所に住んでおり、自分も平成 28 年 10 月に移る予定だがその前に移転

が必要であれば、大変申し訳ないですが今の仮設から別の仮設に一時的にもう一回転居してもらいたく、それを仮設の集約でお示ししています。集約の計画が変更されるかもしれませんが、まずはそういう考えのあることを皆さんにご理解いただきたいと思います。だとすれば、こちらの仮設に知っている人がおり、今からそちらに移りたいというのであれば、早めに要望を出していただければ、皆さんの仮設移転スケジュールも作りしたいと思います。ただ、自分の住まいが決まる前に仮設から出されることは決してありません。自力再建と復興公営住宅の皆さんの住まいが決まるまでは、市内にある仮設住宅に入ることができます。ただ、いまだに自分が自力再建か復興公営住宅かの意向を示さない方もおられ、あとで土地が欲しいとか、あるいは復興公営住宅に入りたいと言われても、今皆様からいただいた意向に沿って土地利用計画を進めておりますので、ぜひ早い段階で自分の住まいの再建の考えをまとめ、担当者と連携を取ってもらえればありがたいです。工事業者さんの説明会等もこれから順次開催されると思いますが、その際もまちづくり協議会は市と業者、住民の3者連携で進めたいと思います。今日皆さんにご説明した松村さんは九州の大分市から来ていただいています。彼がこの両石の担当者として、全般的に窓口の役目を果たすことになっています。地理的にはまだわからない部分もあると思いますが、全部我々で支えます。彼も「この両石は自分が面倒を見るんだ」という志で頑張っており、どうぞ皆さんもよろしくご協力をお願いします。どうもありがとうございました。

以上